



KOBE MONOGATARI

神戸の物語

緒方しげを NO. 13





*A Happy
New Year*



Order Salon

株式会社 木下真珠

〒650 神戸市中央区山本通1丁目7-7(北野坂)

TEL (078)221-3170

10:00AM~6:00PM (無休)

新年は5日から営業いたします。



本年もよろしくお願ひいたします。 1987年元旦

新年あけましておめでとうございます。

ムラタは装いのときめきをお手伝いいたします。



本年も昨年同様よろしく
お願ひいたします。

真珠・貴金属・毛皮・輸入婦人服

ムラタ

本社

神戸市中央区元町通6丁目7番8号明邦ビル ☎(078)341-8041代

さんちかシティエレガンス

神戸市中央区三宮町1丁目10番1号 ☎(078)391-3886

甲子園

甲子園球場南・阪神パーク隣 ☎(0798)48-5218



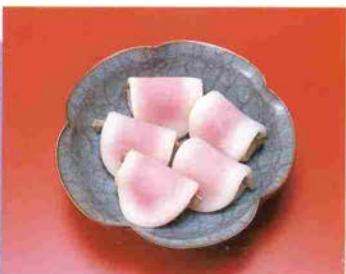
咲いて、あでやか、日本のこころ。



あたたかくて懐かしい日本の表情。飛躍の年になりますように、願いを込めて飾りましょう。
●えとの置物1,000円 ■6階人形売場



きもの大切なパートナー。
日本人の黒髪に映える美しさです。●かんざしセット8,300円 ■4階和装小物売場



初釜のためのふくよかな味わい。キリリと姿勢を正して、抹茶とともにどうぞ。●鶴屋八幡 / 花びら餅各250円 ■地1階和菓子売場



お正月にはテーブルを松花堂スタイルで、ぐっと晴れやかに。目にもおいしいおもてなし。●羽子板両面盆6,500円 黒内朱ワインカップ8,500円 越前塗柳絵松花堂弁当ケース付(5客)25,000円 ■5階和食器売場



DAIMARU KOBE

電話 (078) 331-8121

ANNIVERSARY
270
創業270年

生活公園

あけましておめでとうございます。皆様のご愛顧に支えられ
本年、大丸は創業270年を迎えます。この記念すべき年に、神
戸店は全館の大改装を行い、花咲く頃には、より楽しい皆様
の生活公園として生まれ変わります。どうぞご期待ください。



DAIMARU KOBE

電話 (078) 331-8121

むすび

四季の花むすび

鉢巻

初春に

心つくして
花むすび



お客様と店をむすび、心と心を結ぶ
おむすびになれば、という願いを込
めて“花むすび”と名付けました。
和菓子の感覚で、ちょっとお洒落な
おむすびをお楽しみ下さい。

プランタン三宮B2F ☎078(55)0-168



154 150 146 145 142 140 138 135 134 129 128 124 122 118 114 113 88 86 84 76

- これは神戸を愛する人々の雑誌です
あなたの暮らしに楽しい夢をおくる
神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ
これは神戸っ子の心の手帖です
- ## 1月号目次 ● 1987・No.309
- 表紙／小堀良平
セカンドカバー／中西勝
神戸っ子'87／扇子などか・梶滋
ある集い／①兵庫県民芸協会②関西セントアンドソサエティ
コウベスマップ／坂井知事退任・貝原県政スタート
神戸の物語／緒方しげを
私の意見／陳舞田
隨想／猿丸修吾・廣島美恵子・新谷彌介
連載エッセイ／安水稔和・カット／中西勝
こうへ味な旅／山口勝弘
KOBEE音楽夜話21／上尚司
新春さわやか対談／貝原俊民・藤本統紀子
（特集）「神戸学事始」
①新春座談会／米花裕・尾上久雄・田口寛治・水谷頼介②アン
ケート／新野幸次郎・山口光朔・鈴木謙一・岸木通夫・服部正
・滑川敏彦・田中国夫・鷲田勝次・増田洋・水野進・中内功
経済ボケットジャーナル
地域文化論／武田則明
小山乃里子の華麗なる男のインタビュー／淀川長治
第11回神戸文学賞発表
話題のひろば／①「首都消失」完成披露バー・ティ②ローズガーデン美術公募展表彰式③中井一夫先生の叙勲を祝う会④坂井時忠前知事の叙勲を祝う会
動物園飼育日記④／亀井一成
ファシション・スポット
小磯良平展
神戸のお嬢さん／有馬知子・日笠あい子
ファッション・ウォッチング／福富美代子
コーヒーブレイク
タカラヅカ対談／柴田侑宏＆峰さを理＆南風まい
動物園飼育日記④／亀井一成
有馬歳末記
神戸のお嬢さん／有馬知子・日笠あい子
ファッション・ウォッチング／福富美代子
コーヒーブレイク
タカラヅカ対談／柴田侑宏＆峰さを理＆南風まい
動物園飼育日記④／亀井一成
ファシション・スポット
小磯良平展
神戸を福祉の町に／橋本明
神戸の集いから
神戸っ子俱楽部ニュース
出会いの旅／熊内修一
プロフェッサーPの研究室／岡田淳
KOBE MODERN CULTURE
シネマ試写室／淀川長治
神戸百店会だより
びつといん
ボケットジャーナル
神戸・発見①／「思いっきりハビネス」森下悦伸
第11回神戸文学賞受賞作品「瞑父記」／田能千世子
カメラ／米田定蔵・池田年夫・松原卓也

新しい関西を創造する総合雑誌

オール関西

好評発売中 ¥580(年間購読 ¥8.000) 1月号

■創造の世界

ヤマーナ・グリーンファーム

琵琶湖

■名医に聞く

「泌尿器ガン」吉田修

■カルチャーカレンダー

■「孟さんの新風俗記」他



★スターハイライト

東雲あきら (OSK)

特集

2. 大阪キタ

山口興一、吉本晴彦、鳥井道夫・
「イベントの精神と手法」小松
左京(作家)・「祭と政」イヘ
ントは、効果的な政策トゥールたりうるか
ウス・シュペネマン、端信行、林信夫・
に一言」
・大阪キタ・いきいきレポート

1. イベント新時代の 幕開け

音田昌子、クラ
'87イベントガイド
「むべき道」作道洋太郎、
「明日のキタ」
■座談会「大阪キタの進



■ビッグインタビュー

竹村健一(評論家)

■上方味覚紀行

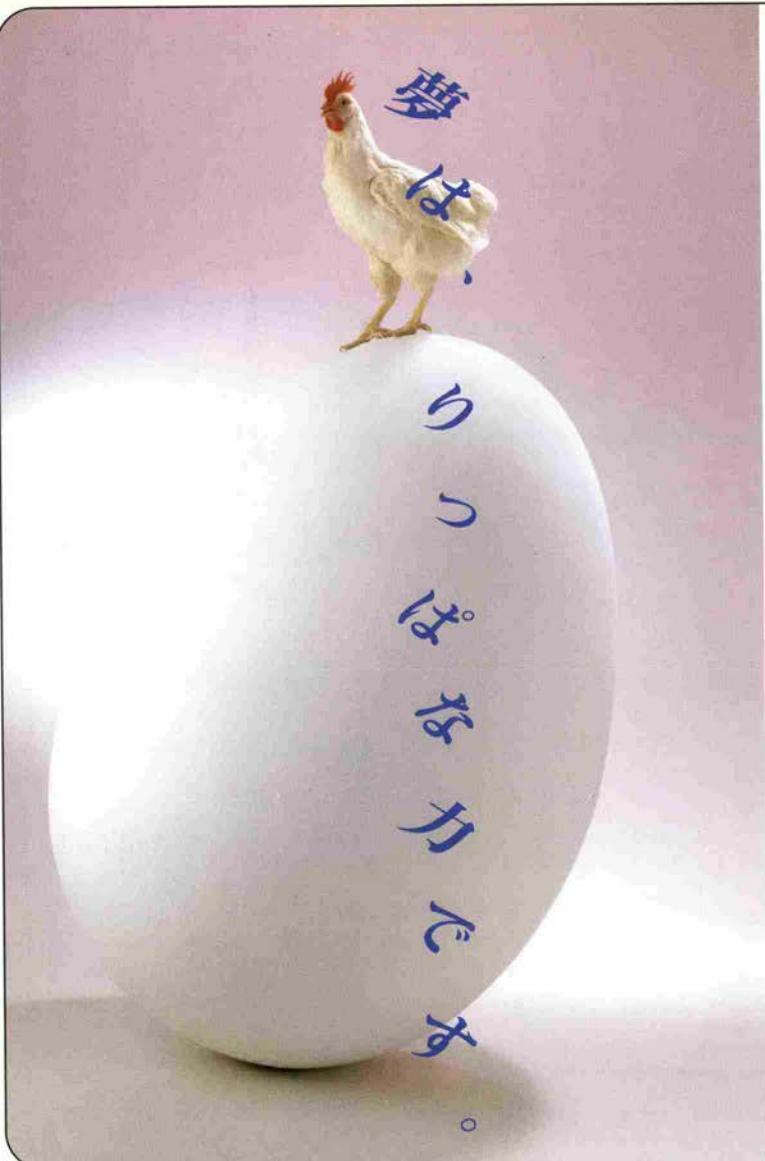
「平八茶屋」文・楠本憲吉

■日本の宝との出会い

「熊野古道」文・宇江敏勝

■グループ登場

ミナミフォーラム



1987

謹賀新年

明日をみつめる

神栄石野証券

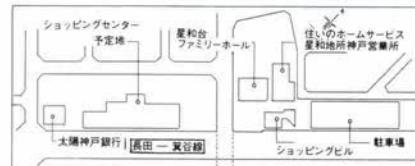
謹賀新年

成熟した星和台に 待望のショッピングビルが…

日生 鈴蘭台
ニュータウン
神戸市北区 星和台



生活文化型のお店を
募集しています
1Fカスカード2月OPEN
3Fヘヤーサロンモリ1月OPEN



よりよい生活環境をつくる
星和地所

建設大臣免許(7)33号
〒536 大阪市北区太融寺町3番24号

日本生命梅田第2ビル8F

(担当 / 事業開発部 / 栗坂

06-311・6571

3 F	68.13m ² (20.67坪)	ヘア サロン モリ	72.74m ² (22.00坪)
2 F	117.07m ² (35.41坪)	72.74m ² (22.00坪)	
1 F	カスカード	72.74m ² (22.00坪)	

貸 料 3.3m² 当り 10千円/月(各室共)
敷 金 3.3m² 当り 1階300千円 2階250千円
3階200千円
共益費 3.3m² 当り 500円/月予定
■所在地 / 神戸市北区鳴子2丁目1-5
建物完成 '62年1月



☆私の意見

地道な歩みで

厚みのある

文化都市創りを

陳 舜臣

△作家△



戦後41年間、日本はゼロの状態からがむしやらに働き、今日の経済大国を築き上げました。諸外国が目を見張る日本人のパワーと努力は大いに誇るべきだと思います。しかし反面、日本は今まで経済面のみを重視し、文化面をおろそかにしてきた現もあります。「日本は金持ちだがうすっべらな国」という国際的な批判やひんしゆくもそういった経済偏重主義に向けられているように思われます。日本のみならず、世界中が経済的な停滞期にさしかかっている今日、この辺で少し「がむしやら」にもブレーキをかけてみてはどうでしょう。日本の社会も成熟期に入っているわけですから、いつまでもがむしやらでさえあればいいということはありません。

そんな日本の中でも、特に先取精神旺盛につつ走ってきた神戸も、今年は開港120年。また、3年後には市制100周年を控え、大きな節目に来ています。しかし、「文化都市」「ファンション都市」などと謳われている割には、やはりまだ経済偏重の観は拭えません。既に経済というハードな器は出来ているのですから、今後はその中に入れるべきソフト、すなわち文化の育成にもっと重点を置くべきだと思います。

実は、神戸の港は日本の他の港に比べてずっと遅れて開港したのですが、そのおかげで他の港が行つた試行錯誤をせずにスムーズに開港できたわけです。これも「急がば回われ」のいい例ではないでしょうか。時代のトップを行くこと、いいものを作ることは違うのですからこれからは地道な努力で文化に厚みをつけていくことです。それには、文化を担う人材をお金と時間をかけて育てることがあります。つまり、目先の利益を追う経済優先主義から文化優先主義への転換、これが神戸のそして日本21世紀に向けてのテーマだと思います。

ポートアイランドの建設が、戦後の総仕上げだとすれば、それが終つたら少しストップして、走りすぎず、地道に、個性的で厚みのある文化の育成に努力すべきだと思います。



SAMOTO CLINIC

佐本
産科

ママといつしょに



澤地雅規ちゃん (S.61.9.20生)

神戸市兵庫区中道通5丁目1-19

「ぼくの初のお出かけ、宮参り。

お外ってまぶしいんだね。」

★佐本産科・婦人科★

神戸市兵庫区中道通4-1-5

☎575-1024 (病院☎596-9639)

市バス上沢4停南スグ

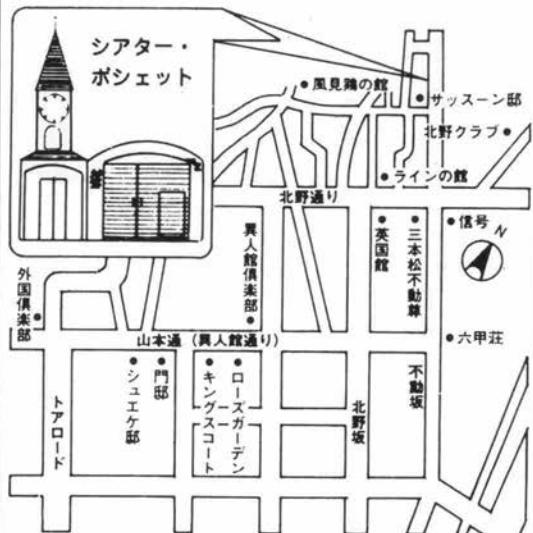
創造の止まり木

実験交流サロン

シアター・ポシェット

レスポンスの空間

賀 正



★シアター利用のご案内

- 曜日、時間／土、日曜日（通常）A.M. 10:00～P.M. 8:00
- 費用／ホール設備の使用無料。光熱、空調、管理費のみ実費
- 付帯設備／グランドピアノ・エレクトーン・録音、音響機器、ミキサー、照明コントローラー、テープレコーダー、マイク、映写機等
- お申し込み、お問い合わせ

そごう前センター街東南角、さんちか入口

〒650 神戸市中央区三宮町1丁目5-1 住友銀行ビル6F

佐本小児歯科 佐本 進 ☎ 331-6302～3

隨想



きり絵／猿丸修吾「うさぎ」

きり絵の年賀状

猿丸 修吾

（銀行員・日本きりえ協会会員）



今年もまた、私はオリジナ
ルの年賀状を多くの方のこと
へ送った。それは干支をテ
ーマにした——もちろん今年
はうさぎであるが——モノト
ーンの「きり絵」である。有
難いことにこんな賀状でも、
毎年楽しみにして下さっている
方がおられる。そんな方の
ためにちょっとした工夫を施
している。上部の賀正と年号

元旦の文字、下の端の住所氏
名を切りとると真中が一枚の大
四角い絵になる。図柄によつ
ては左右を切つて、たて長の
小さな短冊になる年もある。
これを額に入れたり、台紙に
貼りつけて飾つて頂いている
人がある。だから絵は原画を
印刷したものであるが、落款
だけは朱肉でしっかりと押して
送る。

きり絵を手懸けて十年余り

になる。最初は社内の機関誌

に載せるエッセイに私自身が

さし絵を付けたことが始まり

である。平凡な勤め人で基礎

知識や専門的技術もなかつた

が、そんなことがきっかけで

ある月刊誌が毎月作品を連載

していく。こちらは季節の草花や民芸品郷土玩具が題材になっている。

そして、もうひとつ柱として私が今情熱を注ぎ取組んでいるのは、△仏像のきり絵▽である。仏師が木や石を素材にノミで仏像を造るのに對し、紙を素材にカッターナイフ一本で仏さまを生み出していく。作品の特徴は、カラ一は一切使わず黒と白とグレーの濃淡で表現し、たたみ一畳ぐらいの大きなものである。この頑固な信念はこれからも変えるつもりがない。しかししながらきり絵の世界でこれをテーマにする人は少ない。難しい対象物と思われているからかもしれない。全国規模の公式展でも、仏にこだわり続け毎回仏像の作品しか出展しないのは私ぐらいなものである。

お陰さまで沢山の素晴らしい
人とご縁ができた。和紙を漉いてくれる人、表具の仕方を伝授してくれる人、作品に合せひとつひとつ丹念に額縁を作ってくれる人、私はこのようないい人達によって支えられて

いる。またたくさんの素敵なもの

石仏やお地蔵さんにも会つて
きた。鎌倉の露地で、松本の

民芸館の片すみで、倉敷の土
産物屋の庭先など思いもしな

いような目立たないところ
で。

芸術家仲間では、私などま
だ鼻つたれ小僧。しかし二十
年三十年すれば少しあは納得い
くものが出来るかも知れない。
い。彫刻家北村西望師は、百
三歳の今もなおかくしゃくと
して製作活動を続けていた。
こんな巨匠と比べるつもりは
ないが、その年齢まで生きる
とすれば半世紀以上の歳月が
ある。これからどんな人生に
なるか、どんな作品が生まれ
てくるかなどと考えていると
毎日が楽しく、面白くなつて
きた。

本の重さ

廣嶋美恵子

▲主婦▽



父も無類の本好きだったよ
うだ。父が本を読んでいる姿
の記憶はないが、経済、歴
史、文学全集が本棚に整然と
並んでいた。時折り父の本棚より
永井荷風、谷崎潤一郎を抜き
出して、伏せ字の多い小説に
自分で或る情景を創つて読ん
でいた。興味の対象に気づいた父は、「まだ早い」と烈しく怒った。隠れて尚も読み続けた。そのうち見て見ぬふりの父を知った。

終戦の翌年、多くの読み残
しの本をおいて四十九歳で父
は息をひきとった。父の分も
含めた小銭が私の手の中で温
っていた。

玄関に置いたままの本を運
ぶため持ち上げた拍子に、腰
のバランスを失いやといふ
ほど腰を柱に打ちつけてしま
つた。目測より軽かつたので
ある。「粗悪な紙は泥分等を
含み重い。紙質の純度の良い
ものは軽いよ。」と友人は教
えてくれた。

いま、私の手にある私の本

目測をあやまることがある。
る。持ち上げたものが、見かけより重くギックリ腰になつたとよく耳にする。

ある日、玄関に大きな箱が
どんと届いた。私の句集が出
来たのである。十四年間、俳
句を続けてきた凝縮である
が、爆弾でも見るかのように
少しはなれて眺めていた。

わが家は、夫と娘の三人家
族であるが、三人とも活字中
毒で、それぞれに興味の対象
が違う。本は本棚よりはみ出
し、いたるところに置かれて
いる。本の重みで家が少し軋
んできたようである。家族に
「本屋立入禁止令」を出した
が、それも束の間、限定、絶
版寸前ときくとその強迫感で
レジの前に立ってしまう。た
くして広い家でもないから、
本を買えば古い本は捨てねば
ならぬ。私は製本を依頼して
出来上る日はわかつっていた。
一冊ずつ目を通すと時間はと
られ、愛着で整理が捲らな
い。目隠しで古い本を捨てる
ことにした。古本回収の小型
トラックは本を満載して去つ
た。その中に私の父の本も混

じついただろう。

私の手には古本代二百五十
円がのつていた。

は、軽く装丁も気に入つてい

る。それより去来していった
父への感慨がすっかりと重く
胸に残つた。この句集が父の
本に替つて、わが家である時
期までスペースを占める。

この句集の中味の重さは、
はたしてどの位あるものであ
ろうか。

古本の紐のゆるみや鳥渡る

美恵子

■句集「銀の飾り」廣嶋美恵子著/書肆季
節社 三〇〇〇円

街と彫刻

新谷 穎紀

（彫刻家）

ヨーロッパの街々を旅して

いて印象に残るのは、どこに

行ってもその街ならではの特

色があり、表情を持つている

ことである。古い皮袋の中で

熟成してきた美酒のように、

街のたたずまいは落着いてお

り、あるがままに調和してい

る。いたるところ、絵になる

風景”があり、味わい深いの

である。

街の中心には、たいてい広場がある。そこには必ずとい

つてよいほど噴水やモニュメントの彫刻がある。それらは

その街の象徴であつたり、歴史を物語るものであつたりす

る。それらは、そこに置くべきいたしかな理由があつたわけ

で、単なる飾りではなかつた。そこに設置されることで

意味を持ち続けてきたのであ

る。街の人々に親しまれ、愛されるようになつて、彫刻はいつしか街の表情の一部となつていったのだろう。

近年こうしたヨーロッパに

おける都市と彫刻の関係にな

らって、わが国でもさかんに

街の中に彫刻が設置されるよ

うになつたのは、彫刻家のひ

とりとして歓迎すべきことで

はあるが、手放しで喜んでも

いられない事情がある。とい

うのは、ヨーロッパの都市に

おける広場のようなオーパ

ン・パブリックスペースの伝統が我が国では稀薄だからで

ある。

古代ギリシャの都市国家では『アゴラ』と呼ばれる広場

が政治や裁判や商業などの舞

台となり、都市生活の中核と

して機能したが、その後古代

ローマでは『フォロ』に継承され、さらに中世ヨーロッパ

の歴史においても、都市における広場は重要な役割を果し

てきた。広場とともに都市が発展してきたと言つても過言ではないだろう。街区の中心

であり、同時に人々の社会活動をも集約してきた広場は、

長い年月の間に都市の表情を形づくってきたのである。

これ対して、日本ではこうした公共空間はほとんど存在しなかつたようだ。都市

の中にオープンパブリックスペースを積極的に導入した

り、評価するようになつたのは、つい最近のことのよう

な気がする。いずれにせよ、形

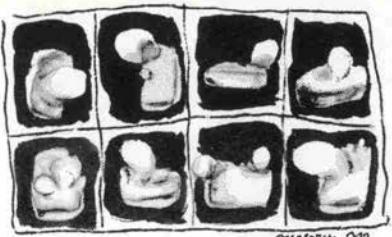
のうえでヨーロッパと同じ水準にたどりつこうとしても、

彼等とのこの伝統の差はいかんともしがたい。

それでも私たちは、これまでイタリアの街々で広場で彫刻が果してきたような役割を、必ず近い将来日本でも実現できることを信じている。



4年ぶりの阪神百貨店の個展会場で



春の宿

安水稔和
絵／中西勝

二十年ばかり前のこと。昭和三十八年（一九六三）一月二日、正月早々飛び出して花祭を見に行つた。それから三年連続毎年二日に飛び出した。そのあともたびたび飛び出して数年通いつめた。

花祭とは愛知県北設楽郡一帯が行われる冬祭で湯立てを中心とした霜月神楽である。十二月から一月まで村ごとに日を変えて行われる。私が行つたのは東栄町下栗代の花祭で、その後もずっとそこへ通つた。花祭は花ともいい、祭りを行う場所を花宿といつた。外花と内花とがあつて、外花は公民館など公共場所で行われ、内花は民家で行われた。下粟代は内花だった。

入口から表座敷まで戸障子が取りはずされ奥の間が神座となる。土間にはかまどが築かれ、火が燃やされ、火の粉が散り、煙が舞い、湯気が立ちのぼる。かまどのまわりの土間で舞いがはじまる。市の舞。花の舞。三つ舞。四つ舞。舞い手とともに見物人たちも土間に入つて舞う。いつはてるともなく舞い狂う。真夜中をすぎてもおわらず、白々と夜が明けてもつづき、昼になつてもお

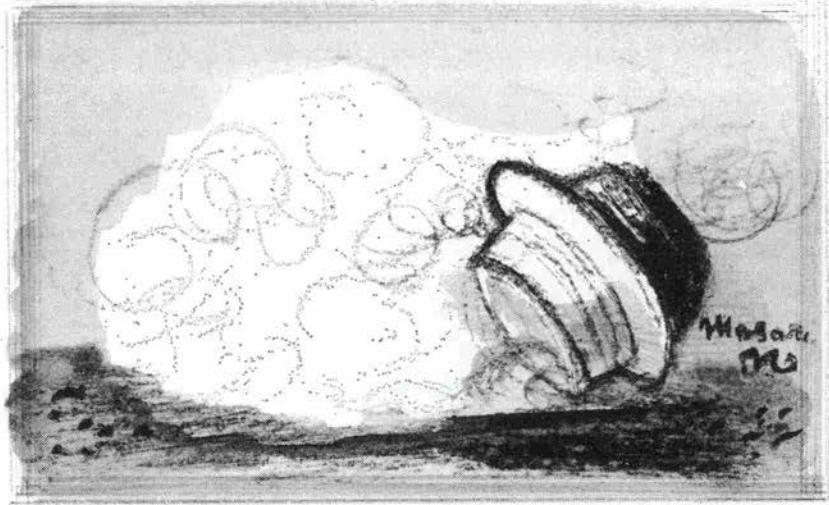
わらず、立ちこめる湯煙のなかで突然釜がくつがえされ湯が撒き散らされて土間は泥田、気がつくと人々は散り、祭りはおわる。御神体が山あいの道を帰つていくころにはすでに日が西に傾いている。

丸一日ほとんど寝ずに過した花宿を去る。夕闇の迫つた道を歩く。竹籜のかげ、川の曲り角、崖下、おもいだしたようにならわれる家の軒に揺れる飾り、門先にそつと置いてある春のしるし。川の音、風の音、山の音、山は初春。

それから、近くの鉱泉宿にたどりついて泥のよに寝たり。田口の商人宿に泊つて次の朝雑煮と黒豆が出たり。本郷で一軒だけ開けていた食堂に入つてこたつに足を突つこんで年賀状を書いたり。どこだつたか五平餅屋で五平餅買つて歩きながらたべたり。奥三河の山のなか、バスに乗つたり歩いたり、北へ抜けたり西へすり落ちたり。

びいんと張りつめた寒色の冬空を眺めながら、火と煙と人いきれと、笛と太鼓と霜と、黒々と迫まる山影と、花宿の夜を目の裏に浮かべかえしな

がら、初春の旅はもうしばらくつづく。



二百年ばかり前のこと。天明四年（一七八四）六月に信濃国を旅立った菅江真澄は越後から日本海沿いに北へ進み、同年九月には出羽国に入った。本荘から道を東にとって子吉川をさかのぼり、十月十一日に雪の雄勝郡西馬音内の床にたどりついた。十九日、柳田村の草なぎ某の家に至り宿を頼むと、雪の消えるまでここでお過しなさいとねんた。

ごろにすすめられて、その地で冬を越すことになつた。

大晦日の夜、鶏もゆく年を惜むのであろう、声をかぎりに鳴いた。故郷を思へば二百余里をへて、玉くしげふたとせ、旅に、としをむかふならん、と真澄は鼠が関からの旅日記「秋田のかりね」を結んでいる。

明ければ天明五年正月一日、初日のさしのぼる光が雪の山々に映えて美しく、軒端に飛びかう群雀のさえずりも今日はことのほかのどかに思われる、家ごとに訪れて新年の挨拶をかわしていく人々の言葉も晴れやかである。得がたい厚意に甘えて雪の村で冬を越すことになった真澄はつづく旅日記「小野のふるさと」をこのように書きはじめ、つづけて北国の正月の風習の数々をこまごまと書き記している。

星を仰いで起きだして汲みあげた若水を幼い童からはじめて老人までまわし飲む。おけらの根を焚いて嗅き身体や衣服に煙をつけて疫病除けの呪いとする。七日の七草。初庚申。帳祝い。

十五日、またの年越し小正月。鳥追い。田むすび。米ためし。餅焼き。女の子が集まつてちいさく切つた餅を火に入れて焼く。女のほうから手を出したとか、男が言い寄つたとか、これは誰ではれは誰だとか、餅を人になぞらえて大声で笑いつて一夜を過す。翌十六日、朝から雪が降り、しおぎがたいほどの寒さである。

そのとき真澄三十一歳。旅はまだはじまつたばかり。この先四十数回の正月を真澄は北国の雪の宿で迎えることになる。

未来派料理と イタリア的人生

山口勝弘（ビデオアーティスト）

「禍福はあざなえる縄のごとし」という。が僕の場合は人生はこんがらかる縄のごとしといったほうがいい。

とにかく何本もの縄がごちゃごちゃの塊りのごとくなり、縄の先があちこちに頭を出している。まことにもってややこしい。

しかし、とにかく縄は一本につながっているから、いくつかの脈絡をたどることは可能である。予定もしないで人と会い、そこで神戸で今度個展をやる。ほぼ一ヶ月間、東京と神戸を行ったりきたりになる。という僕の話をきいて、すぐに一本の電話をかけてくれた。その結果、熊内のマンションの一室の鍵をもらって、「銀河庭園——山口勝弘ビデオスペクタクル」の準備期間から熊内住いとなつた。

折りから紅葉の六甲の麓の坂道は、まるでローマかどこかイタリアの街のようである。

近くのパン屋メルヘンの焼きたてのパンを、朝早く買いにゆくのが愉しみになってきた。とにかく美術館への往復にも便利この上なし、といった具合でまことに調子がいい。

これも一つの偶然で、縄の塊りが生きた証拠である。

今度の展覧会の初日に、神戸をはじめ大阪、京都の先輩や友人たちが発起人となり、お祝いの会が開かれることになった。ただし、励ます会というのだけは、ごめん被りたい。

不遜と言われようと、何と言われようと、こちらから励ましてあげるのは喜んで出かけるが、励まされるのはうれしくない。

そこで、ふと思いついたのは今年の九月に、ベネツィアへ出かけて未来派の展覧会を見たことだつた。現代美術の世界では、今世紀のはじめイタリアで生まれた前衛芸術運動として有名だが、一般にはほとんど知られていないのが未来派である。

そしてヨーロッパのバカنس最後の日程である九月は、なお人の渦でいっぱい。

そのベネツィアの未来派展も、十時の開館一時間前から人の列でいっぱいである。さて、未来派展をみながら、やはりこれはイタリア的な芸術運動だということに気付いた。



生活をエンジョイする人たちにとって、料理もまた芸術なのだ。サンマルコ広場横の本屋の棚に見かけたのが「未来派の料理」というペーパーパックである。

イタリアから帰ってきて、少しは気になつてたその本のことを思いだして、励まされる代りに、イタリアの未来派料理を試みようということになつた。

展覧会の準備の忙しいさなか、といつても未来という名前には、いささか昨年お世話になつている。実は昨年の五月から八月まで、イタリアのジエノヴァからマジョーレ湖畔のパランツァにかけて、やはりビデオによる「未来庭園」という名称になつた。



山口さんを囲んで、カサブランカクラブにて

の展覧会を開いて、イタリア人たちの未来派好みにうけたのだつた。

だからこそ、神戸でその料理を作つて恩返しをしなければならない。

さつそく辞書と首つ引きで、四つのメニューを選んでみた。

未来派料理の特徴は、伝統的なイタリア料理のスタイルを破壊するため、アンティパスタ(前菜)からデザートまでの組合せがごちゃごちやである。スペゲティーとサラダのトマトやアスパラガスが、抽象絵画的構成で一盛りになつたり、若鶏の丸焼きを鏡のような丸皿にのせて出すのは、シニヨリーナの恥らいもない姿のエロチックな見せかけである。

またいろいろの料理すべてに砂糖を大量に使用している。どちらかといえば辛口好みの日本人的グルメ感からすると、甘すぎるのであるが、未来派というのは、運動やスピードが大好き人間たちばかり。

すると、もつともエネルギー効率のよい砂糖を使って、瞬発的な爆発力を高めよう、という狙いにちがいないと推察した。

でもそのエネルギーはどこへ向つて飛んでいたのか。明日への活力か、女性への活力か、それとも本当に芸術への活力だったのか。

イタリア人のことだからそれが本当だか分らない。芸術も人生も、すべてこんがらかたたスペゲティーのようなのが、いかにもイタリアらしい。

（筆者紹介）
一九二八年東京生まれ。一九五一年に北代省三、武満徹らと実験工房を結成、「ヴィトリーノ」(ガラスによる構成絵画)を作成。その後ヴィニス・ビショナーレ等、世界を舞台に新しい芸術を展開する。ビデオアートの分野における日本の第一人者。

レコードと音の遍歴

兵庫教育大学助教授・画家 尚士

上

尚士



「この子は二つぐらいでもう自分の好きなレコードを何枚もある中から探し出してきたんですよ、字も読めないので」。母はよく誇らしげに喋っていた。教育の仕事に携わるようになって、この種の能力は幼児が皆もっている当たり前のものであることを知つて、この母の自慢話は親馬鹿そのものと再認識したが、それでも私が二歳頃からレコードに触れていたことを語っていて、自分には結構それなりの意味をもつている。そのレコード音楽は邦楽の端唄のようなものであつたらしい。

そう言えば、母がよく口ずさんでいたのは「砂漠に日が落ちて…」とか「東京行進曲」など娘時代の流行歌ばかりであった。小学校での音楽は日中戦争から第二次世界大戦に突入する時期で、和音の判別力の養成に終始していた。これは敵の爆撃機と味方のそれを判別するための能力開発であつて、音楽を目的としたものではなかつた。中学では一億総決戦で学徒動員に明け暮れ、音楽どころではなかつた。私がやつとまともな音楽教育らしい授業を受けたのは大学で教養単位として受講した「西洋音楽史」であった。

しかし、幸いにも、私には音楽好きのいい友達がいて、そんな環境にありながらもレコード音楽

に接する機会をもつことができた。ギーゼギングなどとかシユナーベルといった演奏家のいることを知つたのも彼と彼のもつていたレコードを通じてであつた。

当時はもちろんSP盤で再生は手回しの蓄音機で、針は竹製であった。その頃、すでに真空管を使つて分厚い音を再生する電蓄なるものがあつたが、これは高価で、とても私たち学生の手にとどく代物ものではなく、憧れの的であつた。手回しの蓄音機で何とかそれに近い音は出せないものかと、いろいろ試したが、結局、真夜中誰もいない体育館の真ん中に蓄音機を置き、そこから再生される反響した音を体育館の外で聞くというのが一番それらしく聴こえるということを発見した。その時の音は素晴らしいものに思えた。今でもその音は耳に残っている。思うに、私がつい最近老眼鏡のお世話をならざるを得ないようになるまで、飽きもせず日々とオーディオ機器の自作を続けてきたのも、どうもその頃の音に対する欲求不満がそのエネルギーとして心の中にあり続けたのではないかだろうか。

今でも、レコード音楽に関する限り、録音の悪いものはどうも敬遠しがちであるのも、当時のい

い音への憧れの持続であるに違いない。そんなことを感じていながら、一方では、雑音を機械的に取り去り、音も当時とは比較にならぬほど澄んでいるレコードの復刻盤を聞くと、どうもウソっぽく、本物まがいにしか聴こえないものである。

勤め出して、給料を貰うようになると、狭い部屋はたちまちにしてレコードとオーディオ機器で一杯になってしまった。加えて、FM放送が実験を開始し、そのエアチェックに凝り出したものだから、テープが山積みになりどうしようもなくなってしまった。機械のスペックだけをみると、おもちゃみたいなテレコであったが、それでも今、当時録音したテープを再生してみるとかなりな音で鳴っている。それに何よりも当時としては珍しいイタリア歌劇団来日公演の生録など、ちょっと

手放し難い私の宝物になっているものもある。

こうして気が付くと、数知れぬレコードとデータで、購入たびに整理はしてきたつもりであつたのに、目指すレコードを探すのに大変な時間がかかるようになってしまった。今流行りのパソコンによる整理も試してみたが、データを入力する時間がなくて失敗した。最近では、重複を承知で聴きたいレコードを買うこともある。探しても結局は見つけ出せずいらするよりも、少しでも感銘を受けることができれば、それで元はとれたと思うようになってきた。

思えば五十数年のレコードとの付き合いである。その程度の無駄は許されてもいいだろう。



＜筆者紹介＞昭和5年東京生れ。東京美術大学美術学部卒業、千葉大学と女子美術大学講師を経て、現在兵庫教育大学助教授、画家。第2回現代の裸婦展にて受賞。毎年ポートピアホテル内の三越ギャラリーで個展を開く。著書に「デザインの新しい技法」「美術教育の構造」「編集レイアウト」など。須磨区在住。

★ポケットの中の神戸シリーズ ◇異人館のある風景◇



ポケットの中の神戸シリーズ《異人館のある風景》

パスポート北野

ファッショナブル神戸・北野ガイド

好評発売中<ポケット版・200円>

神戸を彩るチャームポイント・北野。

これは北野界隈の最新ガイドブックです。

<目次>

- 異人館のある風景
- 北野から山に海に
- 北野 3 時間世界めぐりあい
- キタノわくわく面白ニュース

• パスポート北野エクセレントショップ200

真珠・宝飾・装身具

服飾・洋品

(婦人服飾・紳士服飾・帽子 etc.)

生活文化

(家具・インテリア・画廊・ギフト etc.)

菓子・パン・喫茶

日本料理

中華料理

世界の料理

(ステーキ・フランス料理・各国料理 etc.)

ドリンク

ホテル・旅館・観光ポイント

北野町界隈歳時記